



編集後記

(血塗られた道)とも呼ばれたこともあるそうだ。

そもそもポンティアックとはそこに棲む先住民の酋長の名前であり、かつて馬車製造で知られた街はその後自動車産業で隆盛し、米国を代表するスポーツカーの名称にも使われた。

ルート66が隆盛を極めた時代には街も繁栄し、ルート66を走るトラックドライバー向けのラジオ局があり、ドライブインがあり、モーターがあったというが、いまは僅かにその面影を残すのみである。

そのルート66も、高速道路の拡充とともに衰退し、まさに映画「カーズ」にあるようにポンティアックの街自体も寂れていったのだ。

いまはルート66ゆかりの観光地としてポンティアックはその存在感を發揮している。

完成時にはそこを走る車の走行スピードが一挙に上がり、米国の物流に革命的な進化をもたらしたのはご存知のとおりである。
当初米光の動脈として「マザーロード」と呼ばれたルート66だが、その交通事故の多さから「ブラッディ・ロード



ポンティアック酋長



博物館の裏にあるルート66の壁画

考えてみれば、そもそも幌馬車隊が西に向かうことから始まった米国の開拓史は、馬車が鉄道になり、鉄道がルート66になり、さらに高速道路にとつて代わられ、いまや航空運輸が主力になっている。まさにロジスティックの進化の歴史がそこにあるのだ。

単なるノスタルジーに浸るのも良いが、ポンティアックの街には米国の物流の歴史そのままが残されている。

さまざまな形で物議を醸している宅配便等の日本の物流のことが、ふと頭によぎった。(溪)

月刊公論 MONTHLY
KORON

7月号 第51巻7号

平成30年7月1日発行 毎月20日発売
本体価格848円(税別) 送料86円

発行人 大中吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代)、FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣濟堂
取次店 日本出版販売/大阪屋栗田

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。